

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1294200082
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム白井富士
所在地	千葉県白井市富士73-89
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://mcs-ainoie.com/gh208.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和 2 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナウイルスの感染もあり、自粛するような活動になってしまったが、室内で行えるレクリエーションなどに入居者様の生活を少しでも豊かに、楽しく過ごしていただこうという前向きな姿勢が多くありました。

例年では、地域との交流イベントや納涼祭とさまざまな行事が予定されていましたが、一人ひとりが理念に則した行動により、決して楽することなく1日1日を真剣に考えた距離感のよいチームで入居者様の支援を行っています。

介護という枠に捉われることなく、当たり前にあるべき当たり前である事柄を大切にしながら、認知症ケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で自由に外出できないためか、テレビで紅葉やグルメ番組を見ると「行きたいね」を連発する利用者が出てくる。すると利用者間の自治会で希望を募り、餅つきが出来ないので忘年会をやろうと、皆でメニューを作ったり、外出レクの計画を立てたりしている。職員は利用者の満足度を高めるように、その人の身体に合わせたレクを企画する。利用者の生活歴を把握して、思いをくみ取り実行して反応を見極めることにより、居室担当者は利用者が喜ぶことを考えるようになった。

日常の会話や家族に電話をして、奥さん、母親や自分自身の思いでの味を聞いて、月に2回「おふくろの味再現会」を実施し、サバ寿司や粕汁、レモンの皮を入れた餃子、クリームシチュー等を作って楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた場所であることを意識し、常に入居者様の目線や第三者の目線を大切にしながら、理念を基に運営していることを心掛け、行動している。	職員のうち半分程度はオープン時から在職しているため、理念を熟知しており会議時や研修時に振り返りを行っている。新人職員に対しては、新人研修や朝礼時に管理者がエピソード等を話している。また、テレビ等で得たタイムリーな出来事を理念に基づいて自分達に合うように話をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベントには必ず参加を行っているが、今年は自粛期間などがあり、密になるようなイベント参加が出来なかった。しかし、散歩などの際に、必ず近隣の方などに挨拶をしたりしている。	例年行われていた地域のお祭り等が総て中止となり、ホームでの納涼祭やフリーマーケットも自粛したため、地域の方々との交流は、毎日の散歩時のあいさつ程度になっている。地域の方からは、汚物の処理に使う新聞紙やひざ掛けを頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年では認知症サポーターなどの講師を行ったり、現場体験としてうどん作りなどで交流をしながらサポーター養成を行っている。しかし、今年については、コロナウイルスにより実施など自粛している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所として今後取り組まなければいけない内容など、会議内で意見を抽出し、偏った改善にならぬよう努めている。	一堂に会しての会議は市の要請もあり、2月以降実施していない状況である。2ヶ月毎に内部で会議を行い、職員状況、入居状況、事故報告、活動報告等を全家族、町会長、地域包括、行政に報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で起こった事故やまた地域イベントなどの相談などの報告は勿論のこと、行政と一緒に地域の問題点に取り組めるよう、定例会議などにも参加している。しかし今年は自粛している。	今年はコロナ感染予防ということもあり、役所や地域包括への訪問は最小限にとどめ、各種の報告等は主にメールでのやり取りで行っている。役所や地域包括からは、マスクやアルコール等を持って来てくれた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一度、身体拘束及び虐待防止に関する評価を行っている。また新人教育においても必ず実施をし、職員の言動や目線などにも気を配り、精神的に追い詰められていないかなど常に気にかけている。	身体拘束をしないケアについては、2ヶ月毎にチェックシートを用いてユニット会議で共有している。例えば、拘束や虐待に関し、周りで見ている職員が疑問を抱くケースにはどんなものがあるか等について話し合っている新人職員に対しては2週間以内に研修を行い、3ヶ月毎に折り返し研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に同じ、虐待に至ってしまう精神状況にならぬよう、努めている。業務の負担軽減や精神的負担など。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士の助言などもいただきながら、成年後見人の必要性が感じられるケースは、ご家族様へ説明などを行うこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約上において何か変更などがあった際や、介護保険の改定の際など、必ず説明会を実施し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、CSアンケートの実施を行い、アンケート結果などは必ず職員間で共有を行い、改善に努めている。	6月に法人の様式でCSアンケート(食事、入浴、医療面等)を行い、郵便で返送してもらった。コメント例として、今までは運営推進会議で職員の出入りや動きについて報告があったが、今後は会議に参加しない家族に対しても報告書を作成して欲しい等の意見が有った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、ESアンケートの実施を行っている。またその他にも個別でヒアリングを行い、現在の事業所における課題などの抽出を行っている。	5月から6月にかけてWebでESアンケートを行い、法人に対して、働くものとして健康診断に関する意見が少しあり、事業所に対しては、現在の仕事に対して目標がないとか、研修をもっと欲しい等の意見が上がった。個人面談は、年間1回以上は必ず行うが、自信がないなど個人的な悩み事が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度にて次の目標やステップが明確になっている。また評価時には個人個人の目標や改善すべきポイントなどの助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今期はふまねっと導入のため、外部研修を予定している。研修を受講する職員は、ある程度選抜し、ステップアップする機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナウイルス流行により、他事業所との交流する場が休止になっていたが、今までは市の活動として認知症対策などを行っていた。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を知るために、ご家族は勿論のことご本人からもここで暮らしていく不安や現在感じている事柄を伺い、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は入居させるにあたり、様々な思い、希望または不安を持っている、また負い目のような気持ちも感じている。そのような気持ちを理解しながら、なかなか言い出せない事で合っても徐々に信頼関係が築けていると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの症状はそれぞれ異なる為、何が出来て何が出来ないのかと残存能力を見極め、それらの情報をもとに生きがいを取り戻すお手伝い出来るということをケアのポイントにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士の相性などを考えたり、同じ趣味や楽しみを共有できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスなどを通し、ご本人の意志だけを汲み取らず、ご家族のご意向も汲み取った支援を心掛けています。また誕生日などは一緒にお祝いをさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人関係が途切れそうになった場合には、職員からご友人を忘れないような声かけをしたり、季節便りを送ったりしている。また可能な限りご自宅などに帰ったりしている。	古い友人を思い出すように「たまには電話をしてみたら」と声掛けをしたり、自宅へ一緒に荷物を取りに行く支援をしている。個別レクでは、城が見たいという利用者に対して、グループ5人で小田原城へ行ったり、ドライブは2時間を目安にユニット毎に近くへ紅葉狩りに出かけたりしている。満足度を高める様に、その人の身体に合わせたレクを企画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの機能により、日常生活が異なってしまうが、【人として】ということを軸とし、会話のかけ橋や趣味や故郷などのさまざまな共通点を見出し関わり合いが持てる機会を作り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援まではいかないが、お便りやお見かけした際などお声かけなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここでの生活の希望や不安、不満について尋ねている。またご家族のご意向も反応し、なるべくご本人の期待に応えられるような実現の提供を心掛けている。	日ごろの生活に対する希望・不安・不満を聞くことに努めている。利用者間で作られている自治会からも要望等が上がってくる仕組みとなっており、ホームとして対応している。普段、意思を伝えにくい人にはその人の生活歴を把握したうえで会話を進め意思を汲み取ったり、イエス、ノーの選択肢から判断もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご本人に伺い、加えてご家族様からお話をいただいて一人ひとりのこれまでの生活環境の把握に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を見て、出来る事に難しくなって来た事、楽しめる事、不快に思う事を一人ひとり抽出してその人らしい暮らし方について職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望を伺い、また現状についてご説明させていただいた上で、より心身の面での質の向上を目指した支援計画を作成している。	記憶力がかなり落ちてきている利用者の家族から、昔の友人宛に手紙を書いてもらえないかという要望があり、コミュニケーションを維持するために介護計画に取り込んだ。食事が減ってきた方には、先ず食べられるものの提供をどうするかユニット会議で検討され、介護計画に取り組みされた。このように、普段の生活の観察力を高め、家族と一緒に介護計画に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事を細かく記録し、また口頭でも伝えることで周知を徹底し、その後の経過についても報告し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の個別的な介護ということにとどまらず、ご家族様ともより広範なコミュニケーションをとり、いつでも何かお手伝いできるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まずは地域社会にホームの存在を周知していただき、地域資源を活用するとともに、周辺の方々のご理解をいただきながら円満な関係性を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医には、日頃の様子や変化で気付いた事をどんな些細な事も伝え、医療的な指示を仰いでいる。外部受診についても同様である。	かかりつけ医利用者は、現在2名おり、通院は家族にお願いをしている。他の16名はホームの提携医による月2回の往診を受けている。訪問看護師が週1回来所し利用者全員を診てくれ、かかりつけ医の利用者は何かあれば、家族を通してかかりつけ医への連絡を取る形となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の介護で気付いた事や気になる点をなるべく事細かに看護師にも見てもらい、それを以降の介護支援の場においても実践、活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院した際、現状把握に努め、長期的な入院とならぬよう、ホームで行える支援などを明確に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約の際に、重度化や終末期に向けた方針を説明、そしてご本人様にそのような時期が年齢的や体力的に感じられた際には、速やかにカンファレンスを実施し、より具体化なお話を行っている。またそのような場合、地域関係者にも速やかな対応が出来るよう、連携を取っている。	食事量・水分補給量の低下、表情から見る活気の低下等が見られるとカンファレンスを開き、医師に連絡をして指示を仰ぐようにしている。一方、利用者への十分な対応をするため訪問看護師を通して、看護ステーションへ対応が可能か直ぐに連絡を取る。ホームでの看取りを家族が希望しても、状況によっては家族の負担を考え病院への搬送も検討される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今期予定をしていたが、コロナウイルスにより初期訓練が受講が出来ていないが、DVDなどを用いて学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練によって、各災害などを想定として内容を行っている。また運営推進会議において、どの程度のSOSが必要になるかなどの意見交換をし、もしもに備えている。	今年度はコロナ禍により避難訓練は遅れており、12月に火災と地震を想定して実施予定。一時避難所は、屋外の駐車場としている。運営推進会議の中で地震発生時は、家族の協力も仰ぐことが話として出ている。地域協力として、当ホームを周辺の方たちの避難場所としての受入れという形で協力することになっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にご本人の羞恥心の部分に気を配っている。職員同士、他者に聞こえるような場所やボリュームで話さないなど努めている。	トイレ使用時、入浴時等他人に見られたくないことには、気を遣っている。また、本人との話を他人に聞かれたくない時には、場所を変えて話すよう注意を払っている。本人の尊厳を大切にする意味からも、利用者の発する言葉に否定的なことを言わず、先ず受け入れる姿勢を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いをしっかりと聞く事で思いや希望を表しやすいよう、外出レクや食事メニュー、また日頃着用する衣服などに自己決定の促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日など、外に出てみたいなどという気持ちが表れるような声かけや、また表情などをみて晴れやかになるような支援提供の実施をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を切った際や見慣れない衣服を着用している際には、『今日のお洋服、とても素敵ね！』などと声を掛け、周りの目がある事への意識を刺激している、。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜がカット出来る入居者は野菜切りのお手伝いをして頂いたり、また盛り付けができる入居者様には盛りつけをお願いしたりなど、何かしかで出来る喜びやから食事を楽しみ支援へ働きかけている。	完全調理品の利用を昨年から昼食と夕食は内部での調理に切り替えると、食事の量が増えてきた。食事準備の手伝いも以前と違って、利用者の参画意識が高まっている。月2回「おふくろの味再現会」を企画し、昔食べた懐かしいものを思い出し、皆さん食事会を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼がしやすいよう、別メニューで食べやすいものを提供したりしている。また水分摂取に気を配り、個々の目安がしっかりと摂取できるよう、時にはゼリーなどに変更しながら栄養摂取等に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者様の口腔ケアは実施していないが、食べカスが残しやすい入居者様は毎食後の実施を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	色分けのマグネットを使用し、排泄の実施状況や排尿間隔などの把握がしやすいようにし、極力失禁させないように努めている。	トイレの内容を時間ごとに色分けしたマグネットを使い、状況確認を職員間で共有している。利用者個々人の管理を徹底していくことで、昨年度と比べ失禁の件数が減っている。極力トイレで排泄することで、快適な生活が送れるとともに利用者にとって不穏が少なくなる傾向にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供やゴボウ茶など、個々に応じた働きかけを行い、排出しにくい方などは、仙骨マッサージや腹圧で排出しやすいように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人で入浴できる方などは、好きな時間などに入浴していただいている。お手伝いが必要な方は、職員がいる時間帯で入浴支援を行っているが、その時々に応じた対応を行っている。	入浴スケジュール表で入浴状況を確認し、少なくとも三日に一度は入浴してもらうようにしている。浴場に「のれん」を掛け、風呂場であることを認識してもらっている。入浴剤、季節に応じた「ゆず湯」「しょうぶ湯」も行い、入浴することで気分がほぐれる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や日中の活動の様子などを考慮し、休息を促すなど実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来る限り飲んでる薬が減らせるように配合薬の相談をしたり、また便秘薬の必要性、薬剤からくる副作用などをご本人の様子から細かな点を相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いのなかで、人の役割を大切に、一人ひとりが存在価値が高まるよう、感謝を必ず伝えている。また『今日はどこに行く?』と投げかけることによって、その後が楽しいになれるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、戸外へ出掛ける機会や地域との交流などが少なかったが、職員本位にならぬよう、常に意識をし、入居者様が行きたいところやその視点を大切にしながら、外出支援を行っている。	コロナ禍により外出もままならず、ちょっとした散歩や室内での体操を組み入れるようにしている。現在、法人内の同じエリアのグループホームとインストラクターの指導による「ふまねっと体操」の研修を受けることにしており、来年から取り組む計画がある。外出支援は小規模の個別支援でドライブに出かけることも行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がある方は、ご本人の希望に応じて所持している。また支払い時なども職員は関与せず見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際には、お礼のお電話をしたりしている。また手紙のやりとりが出来る方などは定期的にやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアには花を飾ったり、室温や湿度また、匂いなどに気を付けている。また季節感を感じていただけるよう、装飾なども季節に適した装飾を心掛けている。	フロア、玄関にソファを置き、多くの人が利用して寛いでいる。近所の家の庭で採れた花を頂き飾ったり、季節に応じた飾り物を飾ることで生活に清涼感を与えているようである。ここのホームの特徴の一つにフレンチブルドッグの”ドンちゃん”がいて、皆さんの癒しの一つともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用しながら、違った空間でゆったりと過ごせるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス、こたつなどご本人様が大切に使ってこられたものをお持ち込みいただいている。また職員が読経を行ったりすることもある。	入居前の生活を継続してもらうため、使い慣れた物の持ち込みを受入れ、住んでいた家に伺い、使用していた物を確認したり引っ越しの手伝いもすることがある。職員の中に坊さんだった人がおり、居室で読経をしてあげることもある。高齢者の方たちにとっては、非常にありがたがっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場にはのれんを使用したり、居室には表札、衣服をハンガーにかけたりなどご本人の能力を見極め、ご自身で行えるよう最大限の工夫を心掛けている。また動線の確保をしている。		